

指導資料



鹿児島県総合教育センター

英語 第60号

- 中学校，盲・聾・養護学校対象 -

平成17年5月発行

基礎・基本の定着を図る中学校英語科学習指導の充実

- 平成16年度「基礎・基本」定着度調査の結果を踏まえた指導法の工夫 -

鹿児島県教育委員会では平成15年度に引き続き，平成16年度「基礎・基本」定着度調査を実施した。この調査は，学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な内容のうち，「読み・書き・算」等の基礎学力について県全体の実態を把握するとともに，各校の課題を明確にし，生徒の個に応じたきめ細かな指導方法の改善に取り組むことにより，基礎・基本の確実な定着を図ることを目的として実施されている。

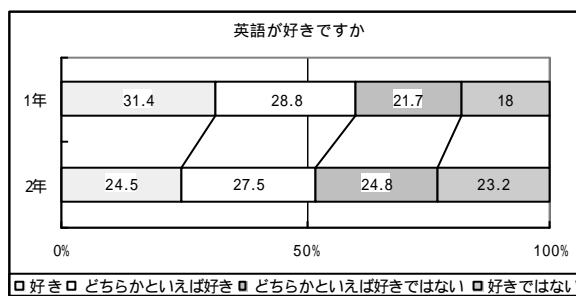
今回の調査では，中学校第1学年，第2学年を対象に，国語，社会，数学，理科，英語及び意識調査が，県下すべての学校において実施された。このことにより，それぞれの学校が教科・領域などについて自校のデータを精査し，それまでの取組等を検討するなど，指導方法の改善に生かすことが期待される。また，調査内容や対象が広がったことで，これまで以上に基礎・基本の定着状況が明確にとらえられ，より一層のきめ細かな指導の工夫を図ることが可能となった。

そこで，本稿では英語科の定着度調査結果について分析し，そこから基礎・基本の定着を目指す英語科学習指導法の工夫について述べる。

1 意識調査の結果

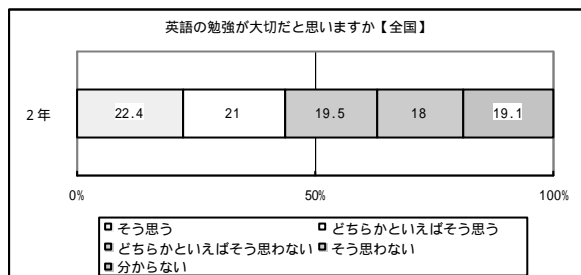
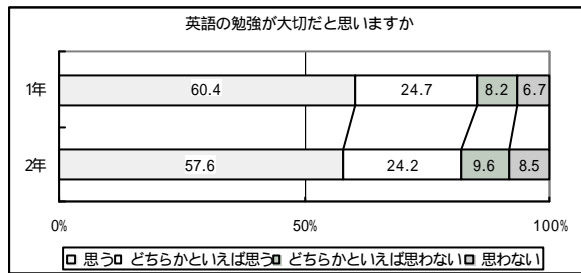
意識調査については，各中学校の第1学年，第2学年からそれぞれ1学級を抽出し，質問紙法により実施された。ここでは，調査結果の中から，英語科に関する意識の傾向についての分析と考察を述べる。

質問1 あなたは，英語が好きですか。



英語が「好きではない」，「どちらかといえば好きではない」と答えた生徒の割合は英語を学び始めた第1学年の段階で40%近くにも達し，この割合が学年が上がるにつれて増加していることから，生徒の発達段階を十分に踏まえた指導や英語への興味・関心をより一層高める指導の工夫が必要である。

質問2 あなたは英語の勉強が大切だと思いますか。

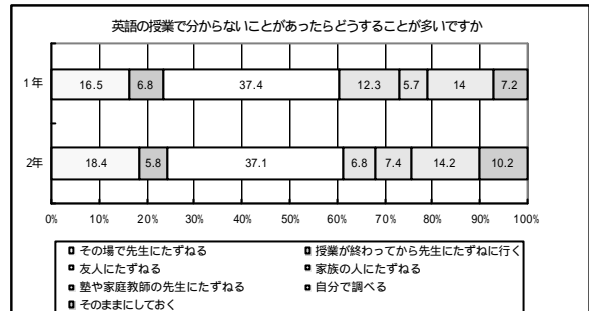


英語の勉強の大切さについては、「思う」、「どちらかといえば思う」と答えた生徒の割合が8割以上に達し、その重要性を認識している。これを平成13年度国立教育政策研究所が全国的規模で行った教育課程実施状況調査（以下、「国研」と記す。）の結果と比較すると、本県の生徒が英語学習の重要性を肯定的に回答した割合が非常に高いことが分かる。

これは、これまでの学習において英語を学ぶ意義が、生徒に認識されたことを示しているものと考えられる。そこで、このような意識の高さを継続し、更に高めていくための指導方法の工夫改善が求められる。

一方、20%近くの生徒が、英語学習の重要性に対して、否定的に回答している。これらの生徒に対しては、英語学習の意義についての認識が深まるよう、日ごろからあらゆる機会を通して、英語学習の重要性について気付かせるとともに、個に応じた指導の工夫を図ることが肝要である。

質問3 あなたは、英語の授業で分からないことがあったらどうすることが多いですか。



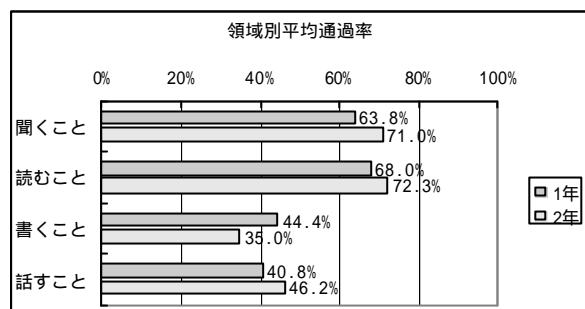
授業で分からないことがあったとき、何らかの対処をしようとする態度をもっている生徒の割合は、およそ9割を占めている。このうち、「友人にたずねる」という回答が最も多いことから、授業の中で生徒同士が学び合い、高め合う場を設定するなどの学習形態の工夫を図る必要がある。また、「自分で調べる」と答えた生徒も見られることから、辞書やコンピュータの活用など生徒自身がさらに効果的に学ぶ手だてを指導することが重要である。一方、「そのままにしておく」という生徒も約10%おり、その割合が学年が上がるにつれて増えていることから、英語学習の興味・関心を高揚させるとともに、分からないことが出てきたときの対処の仕方を提示することや分かるまで粘り強く取り組む態度を育成することなどが大切である。

2 定着度調査の結果

定着度調査で用いられた問題は、学習指導要領に示された内容の定着状況を問うたものである。定着度調査における英語科の結果は、第1学年、第2学年とも平均通過率が60%に満たない状況であり、基礎・基本の定着へ向けて一層の取組が必要である。次に示すのは、領域別、観点別の具体的な結果状況の分析と考察である。

(1) 領域別，観点別平均通過率の結果

各領域別の平均通過率は下表のとおりである。ただし，「話すこと」についてはそれぞれの設問の内容から間接的にみた結果である。



各領域における設問形式別の通過率の最も高かったものと低かったものを示す。

〔「聞くこと」についての通過率〕

学年	設 問	通過率
1年	大問 3 (1) 会話を聞いて概要・要点を理解する。	92.8%
	大問 1 (5) 英語を聞いて詳細を理解する。	27.5%
2年	大問 4 (2) 会話を聞いて概要・要点を理解する。	97.3%
	大問 1 (4) 英語での問い掛けに回答する。	28.9%

〔「読むこと」についての通過率〕

学年	設 問	通過率
1年	大問 4 (1) 英文を読んで絵の内容を読み取る。	81.9%
	大問 6 (3) 会話文を読んで談話構造を問う。	46.2%
2年	大問 5 (3) 英文を読んで絵の内容を読み取る。	90.3%
	大問 7 (3) 会話文を読んで談話構造を問う。	21.6%

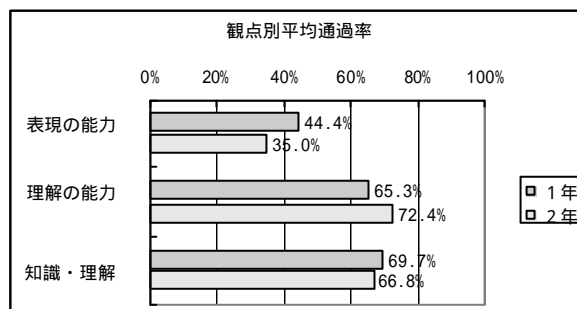
〔「書くこと」についての通過率〕

学年	設 問	通過率
1年	大問 10 (1) 与えられた英語を正しい語順で書く。	93.3%
	大問 9 (2) 対話文にふさわしい英文を書き入れる。	6.3%
2年	大問 11 (1, 2) 与えられた英語を正しい語順で書く。	76.2%
	大問 10 (3) メモをもとにふさわしい英文を書き入れる。	8.9%

〔「話すこと」についての通過率〕

学年	設 問	通過率
1年	大問 1 (1) 英語の問い掛けに回答する。	78.0%
	大問 9 (2) (「書くこと」の設問に同じ)	6.3%
2年	大問 1 (1) 英語の問い掛けに回答する。	87.2%
	大問 10 (3) (「書くこと」の設問に同じ)	8.9%

次に観点別の平均通過率を示す。



なお，「表現の能力」については，「書くこと」と「聞くこと」の設問から，「理解の能力」については，「聞くこと」と「読むこと」の設問から，「言語や文化についての知識・理解」については，談話構造の理解問題と言語使用に関する知識理解問題及び「書くこと」の文構造の問題を基に，それぞれ判断した結果で

(2) 考察

特に、今回は「書くこと」の力を直接記述することを通してみる設問であったが、基礎的・基本的な内容を正確に書く力を身に付けさせることの必要性が明らかになった。また、通過率の高い設問と低い設問との差が大きく、重点化した指導も重要である。

さらに、第1学年、第2学年とも「言語や文化に関する知識・理解」については、概ね高い通過率となっている。しかし、一定の基本的な知識を身に付けていても、実際のコミュニケーションを目的として使う機会が少ないため、「表現の能力」の平均通過率は低くなっていると考えられる。

3 定着度調査からとらえる改善策

(1) 「書くこと」について

ア 「書くこと」の設問の分析と考察

(ア) トピック指定問題の分析と考察

与えられたトピックについて，内容を自分で考えて書くことができるかをみる問題である。

下の（ ）から、一つのトピックを選んで
で囲み、そのことについて英文で3文書きなさい。
ただし、最初の文は I like に続けて書き始めなさい。
(ピリオドやコンマなどの符号や大文字の使い方に注意して書くこと)

(季節・動物・趣味)について

- (1) I like _____
(2) _____
(3) _____

[2 年]

設問番号	無答率	通過率
大問 9 - (1)	13.1%	47.9%
大問 9 - (2)	19.2%	34.6%
大問 9 - (3)	24.3%	25.1%

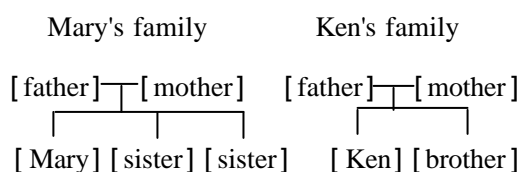
この設問においては, I like play soccer.

I like read a book. など動詞の目的語に当
たる品詞の区別ができていなかったり、
I like dog/cat. など名詞の単数複数の概念
が定着していなかったりする誤答が見ら
れた。また、無答率の高さも通過率の低
さの原因の一つとなっている。

(イ) 条件指定問題の分析と考察

与えられた指示に従い，内容を英語で書くことができるかをみる問題である。

次のメアリー (Mary) とケン (Ken) の家族関係図を見て、下の対話文の () の中に適当な英文を入れて、対話を完成させよ。



Mary: Ken, do you have a sister?
 Ken: No, I don't.
 Mary: I have two sisters.
 But (). How about you?
 Ken: I have one brother.

[1 年]

設問番号	無答率	通過率
大問 9 - (1)	28.9%	10.2%

ここで特に、誤答として多かったのは、トピック指定問題の誤答にも見られた I don't have brother. のような名詞の使い方の誤りや、I don't brothers. のような文章中の動詞の欠落であった。この設問についても無答率が高いため、段階を踏まえた継続した指導を行うことが必要である。

(ウ) 文構造理解問題の分析と考察

与えられた語句で正しい語順で書くことができるかをみる問題である。

次の対話を完成させるために、〔 〕内に与えられた語または語句を並べかえて()に入る英文を作りなさい。答えは、左よりその記号順に書きなさい。

A: () ?

B: She is from Miyazaki.

〔 A is イ where ウ Ms. Tanaka エ from 〕

[2 年]

設問番号	通過率
大問11 - (3)	18.4%

この設問では、Where is from Ms. Tanaka? /

Where Ms. Tanaka is from? など誤答が多く見られ、疑問詞のあとに続く疑問文の作り方が定着していないことが分かる。

イ 「書くこと」の指導方法改善の視点

(ア) 文字や符号についての知識や技能の確実な定着

書く活動の最も基本的な知識・技能の

定着を図るためには、繰り返し指導することが必要である。指導の工夫として次のような例が考えられる。

自分の名刺づくりや入国審査カードなど自分の名前や住所、趣味などを書く活動

グリーティングカードを作成し、作品を審査し合うコンテストの実施

〔 留意点 〕

日本語の表記方法とは異なる点について注意する。(単語を1語ずつ区切って書く)

英語を正しく書くために -

- ・大文字・小文字の正しい使い分けに注意する。
- ・文の内容に合わせて疑問符や感嘆符などを適切に使用する。
- ・読んで分かりやすく書く。

(イ) 自分の感想や意見を書く活動の充実

実践的コミュニケーション能力の育成に当たっては、生徒が聞いたり読んだりしたことを理解するだけでなく、自分なりの感想や意見などをもって、それをもとにコミュニケーションを図るような指導が大切である。

5W1Hで友達のスピーチを聞いてメモにまとめ、要点を発表する活動

学校以外の人を招く学校行事のポスター作りの活動

メモをもとに状況や内容を表す英文を作る活動

〔 留意点 〕

聞いたり読んだりしたことについて簡潔にメモをとる。

生徒に、聞いたり読んだりした内容に主体的なかかわりをもたせる。

自分の感想や意見などを書くことを求める。

自分なりの感想や意見などをもち、それをもとにコミュニケーションを図る。

4 領域を相互に関連付けた活動を行わ

せる。

(ウ) 自分の考えや気持ちを自由に書く活動の充実

与えられた内容について自分なりの感想や意見を書くだけでなく、自分の考えや気持ちを自由に書いて、読み手に正しく伝えるための指導の充実が大切である。

易しい絵本などを用いて簡単な文章でストーリーを作る活動

複数の絵を使って、順序を決め、その絵にふさわしい英文を作っていく活動

生徒に関連があるトピックを与え、英文の構成に気を付けながら自由に書かせる活動

〔留意点〕

読み手を想定する：他の生徒や教師、ネイティブ・スピーカー、海外の友人など

自分の考えや気持ちを明確にする。

内容の事実関係や順序などを整理する。

適切な表現を用いる。

自分のことを積極的に書いて表現する。

(I) 自分の意向が正しく伝わるように書く活動の展開

単に自分の感想や意見などを述べるのとは違い、読み手に働き掛ける明確な意図をもてるような指導の手だてが重要である。また、読み手もそれらに応答するようなコミュニケーションの場面の設定が求められる。

トピックに応じて書いたまとまった英文を発表し合い、その作品についてのコメントを書く活動

自分の住んでいる町や学校など自分と関係のあることについて説明する活動

〔留意点〕

伝える内容を整理する。

相手との関係や相手の立場などを踏まえる。

自分の意向を明確にした上で適切な表現を用いる。

(オ) その他の指導の工夫

コミュニケーション活動に必要な基本的な文型や文法事項の定着を図るために、それらを使ってコミュニケーションを図る機会を指導計画に位置付け、計画的に指導を行っていくとともに、確実な定着のために繰り返し指導を行っていくことが大切である。また定着の工夫については、繰り返させるだけでなく、学んだことを理解させ、関連付けたり、学んだことを活用させたりすることなどの工夫が肝要である。

日ごろから身近な人々やものについての自分の考えや気持ちなどを伝える言語活動を繰り返し行うことが大切である。その際、書く活動だけでなく、話す活動・聞く活動・読む活動との関連を図りながら、英語で表現する力を伸ばしていくことが必要である。

英語を書くことに慣れさせるために、手紙やスピーチの原稿など具体的で必然性のあるテーマを与え、一定のまとまりのある英文を段階を踏まえて書かせる指導が大切である。

自分の考えや思いを伝えるには、音声及び文字を伝達手段として使うことのできる、基礎的・基本的な能力が重要である。そこで、一単位時間、一年間、そして3学年間を見通した計画の下、段階的かつ継続的に指導と評価を実施していく

ことが大切である。

英語で表現することへの抵抗感を少なくするために、授業だけでなく家庭との連携を図り、毎日英語に触れさせる機会を増やしていくことが必要である。例えば、辞書やコンピュータの活用を学ばせたり、小テストや単語検定などを実施し、家庭での学習と授業の関連をより一層図ったり、授業の様子や学習状況について教科通信を通して知らせたりすることなどが挙げられる。

(2) その他の領域について

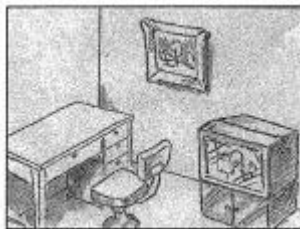
ア 設問の分析と考察

「書くこと」の領域の設問以外にも通過率の低かった設問として次のようなものが挙げられる。

(ア) 詳細理解問題（「聞くこと」の設問）の分析と考察

絵を見ながら英文を聞いて、絵の内容と合った英文を選択する問題である。

絵についてa, b, c, dの英文を読みます。それぞれの英文が、絵の内容と一致する場合は「正」の文字を、一致しない場合は「誤」の文字を で囲みなさい。



(テープ音声)

- a Wow! You have a beautiful picture on the chair.
- b Wow! You have a beautiful picture on the wall.

- c Wow! You have a beautiful picture on the TV.
- d Wow! You have a beautiful picture on the desk.

[1年]

通過率	設問番号
14.1%	大問 2 - (2)

この設問では、前置詞(on)の用法の中核となる意味（「～に接して」）の理解が不足していたことや基本的な語句の意味が理解されていなかったために通過率が低くなったと考えられる。

(イ) 談話の構造理解問題（「読むこと」）の分析と考察

英文を読んで、前後の文脈から適切な英文を選択する問題である。

次の[]内の文を対話に入れるとき最も適当な場所をア～エの中から一つ選びその記号を書きなさい。

[Is it your bag?]

男の子: Hello. [ア]

女の子: No. My bag is red. [イ]

It's Ken's bag. [ウ]

男の子: [エ] Oh, that is your bag!

女の子: Yes, that's mine. [1年]

設問番号	通過率
大問 6 - (3)	46.2%

ここでは、疑問文に対する適切な応答を見つけられなかったり、空欄の後ろにある英文の意味を読み取れていなかったりしたため、通過率が低くなったと考えられる。

イ 指導の改善

(ア) 「聞くこと」の指導の改善

質問や依頼など話し手からの働き

掛けに対する応答を，実際の使用場面やことばの働きを重視した活動を具体的に行うなど，言語活動を工夫し，継続的に指導することが大切である。

内容を理解する上でキーワードになる語句を把握させ，それらをいろいろな場面で繰り返し聞き取る練習を行っていくことが必要である。

英語を十分に使った授業を展開したり，ALTを活用したりして，自然な口調で話されたり読まれたりする英語を十分に聞き取らせ，英語を聞くことに慣れ親しませるなど，英語に触れる機会を一層増やしていくことが大切である。

(ウ) 「読むこと」の指導の改善

文全体の内容や対話の流れを読み取るために，書かれた内容が適切に表現されるような言語活動（例：声の強弱・大きさ・早さを変えた音読練習やそれを基にした暗唱コンテストなど）実施することが大切である。

日ごろから授業の中で英語の物語や詩などを読ませたり，生徒に関連のある題材を読み取りの視点やキーワードを押さえて読ませたりすることで，英語を読むことに慣れ親しませる。

(3) 基礎・基本のより一層の定着のために ア コミュニケーションへの関心・意欲・

態度の育成の工夫

生徒の興味・関心を高め，意欲的に英語でコミュニケーションを図ろうと

する態度を育成することが，基礎・基本の定着を図るために非常に重要なことである。そこで，様々な言語活動において生徒が間違いを恐れず積極的にコミュニケーションを図り，間違いなどから学ぼうとしたり，言葉を創造的に使っていこうとしたりするような工夫を授業に生かしていくことが必要である。

イ 言語や文化についての知識・理解を図る指導の工夫

基礎・基本を定着させる上で，言語能力の育成だけでなく，英語の特徴や文化などについて理解を深める指導も重要である。そこで，様々な言語活動において英語独特の発想や表現を意識的に生かしていく工夫が大切である。

英語の学習において，基礎的・基本的な内容の定着を図る指導を継続的に繰り返し行っていくことは，それを習得させるために欠かすことのできないものである。しかしながら，ただ単に英語を表面的，機械的に理解したり表現したりするだけでなく，実際に英語を聞いたり，話したり，読んだり，書いたりする言語活動を有機的に関連付けた活動を行い，それを活用して意思の伝達を行う言語活動を重視していくことがより一層求められる。

今後，各学校においてこの定着度調査の結果を基に，基礎・基本の定着に向けて具体的な指導方法の改善を図っていくことが望まれる。

（教科教育研修課）